

地域と協同の 115号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

地域と協同の研究センター法人化の頃

橋本 吉広 氏 (地域と協同の研究センター理事・大学非常勤講師)



地域と協同の研究センターの設立(1995年)、NPO法人化(2000年)という節目の時期に事務局として関わってきた一人として、あまり語り継いでいないことを余話としてお伝えしておきたい。

任意団体としての発足から5年の実績を踏まえ、社会的な存在として研究センターの法人化を検討しようとなり、当時、生協関係の研究組織として先行していた事例を参照し、1998年に施行されてブームともなっていた特定非営利活動促進法にもとづくNPO法人を選択してNPO法人として発足した。

現在のNPO法は、NPO法人が行う特定非営利活動を20分野(法第2条別表)にまで拡充しているが、当時は12分野が記載されていた。当初、研究センター定款では12分野すべてを活動領域として掲げようと考え、愛知県の窓口で相談した所、すべてを掲げても構わないが、各分野に対応する2年度分の事業計画が必要なので、2,3分野程度に絞ってはと助言された。今後の可能性として広く12分野を想定していたものの、その時点で全分野の根拠ある事業計画を作成するのは困難と判断し、包括性の高い「社会教育の推進を図る活動(第2号)」と「まちづくりの推進を図る活動(第3号)」という2領域に絞ることになった。それが現在に引き継がれているが、第3号は研究センターの活動が「まちづくりの推進を図る」という公益実現を活動の目的とすることを宣言したものであり、研究センターの活動が「社会教育の推進を図る」活動であるとは、研究センターの研究への参加を通し市民が成長・発達する場になるという研究センターの活動主体について明記したものであった。

法人化から今年で14年を経るが、振り返って研究センターの活動領域は広がり、実に多くの市民研究家が育ち、研究センターに蓄積された「研究力」は、大いに誇りうるものになっている。そうした会員の「研究力」を発揮してもらうことで、研究センターは(広義の)「まちづくり」でもっと大きな社会貢献ができるように思われる。総会に向けた研究センター第3期中期目標の検討では、20分野にまで広がった特定非営利活動を視野に入れるのも、ひとつの視点になるのではないかと。

(参考) 生協総研『生活協同組合研究』2001年3月号に、研究センター発足の経緯を詳しく紹介した拙稿「市民の時代の学びと探究のNPO～なぜ、NPO法人地域と協同の研究センターなのか」が掲載されている。 2014年3月20日

CONTENTS

巻頭エッセイ 地域と協同の研究センターが法人化のころ	1
第10回東海交流フォーラム 開催 「地域で人をつなぎ未来をつくる！」	2
2013年度三重のつどい 見学・調査の報告 「大山田農林業公社」 「いがまち山里の幸利用組合かじか」	3
三重県生協連より、活動紹介いただきました 「消費者(三重県民)向け中部電力電気料金値上げ説明会」	4
情報クリップ	5 - 7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 3月の活動

1日(土) F職員の仕事を考える センター長ヒアリング
6日(木) 組合員理事ゼミナール
7日(金) 寄付講義準備会第2回
10日(月) あんきネット10周年企画
13日(木) 岐阜地域懇談会世話人会/環境パネル世話人会
15日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/理事会
18日(火) 暮らしを語りあう会
20日(木) F職員の仕事を考える世話人会
24日(月) 地域福祉を支える市民協同パネル世話人会
28日(金)・29日(土) 協同の未来塾 第1回
31日(月) NEWS編集委員会



「地域で人をつなぎ未来をつくる！」

～あなたは、誰かとつながっていますか？ あなたは、今、しあわせですか？～

2月8日(土)第10回東海交流フォーラムを生協生活文化会館4階ホールに於いて、105人の参加で開催しました。まず小木曾洋司先生から「地域における協同の役割と課題」として講演をしていただき、協同組合が実践している事例を5つ報告いただきました。そしてグループに別れ、報告内容を参考にテーマに沿って自由に交流しました。最後に報告と分散会を振り返り、参加者よりの感想や意見発表をして、見えてきたことを確認しました。

参加者からは、「すごく考えが広がった」「年齢や団体を越え、率直な話し合いがもてた」「研究センターならではの交流だ」など感想の声をいただきました。

講演 “地域における協同の役割と課題”

地域と協同の研究センター理事 小木曾洋司氏(中京大学 現代社会学部准教授)

「『自分をひらく』ことがどうやったらできるかを考えご報告したいと思います。なぜ今『つながり』か、人間はやはり、関係がすべてです。関係があるからこそ、何かに関心もち、何かを知りたいとなる、それが切れていると自分のことさえわからなくなる状況があります。つながりが「切れる」過程は2つある。ひとつは、標準的な生活、会社と家族、それがもてない人が孤独死、もうひとつは、完全に女性に家を任せて、他律的に決められた生活の枠組みの中で過剰適用をして、定年退職で、会社から、奥さんからほかれてしまう。つながりができない若者では、30代の『助けてと言えない』人たちが多くなる、それには規制緩和による労働者の非正規化がかなり大きな影響をもっています。大切なのは、関係をつくることだが、その関係をつくるときに自分の能力を、体力を、感性を磨かないといけない。どういう機会と場所で『自分をひらく』かが大切です。

現実には協同関係はかなりいっぱいあります。アサダワタルさんは『住み開き 家から始めるコミュニティ』という本で、若い人たちは、なかなか外には出て行きたがらない、人とつながりたいという思考性はかなりできてきているのではないかと、『住み開き』は、『個人宅を外へ解放する空間』であり『小さな公』と言っています。今日の事例報告は、『大きな公』で協同のシステムをつくるとうとする活動だと思えます。



若い人たちはそこになかなか出ていけない、自分のコントロールできる範囲でやり初めている、ここでどう接合できるかどうか、こういう問題設定を皆さんにお伝えしたかったわけです。」

そして「住み開き」の事例を挙げながら「制度に制約されず、制度を利用する形で地縁とは違うが地縁社会の上に、協同関係と活動がつけ加わって地域社会の豊かさになっています。若人たちのほうが、他人に対する思考を徐々に開き始めています。協同関係である皆さんのやっている活動と、外でやっている活動とがどんなふうに引っ張り出せるかと強く考えています」と話されました。

報告 人がつながり協同組合・市民協同組織が実践していることを5つの報告をしていただきました。

- 報告 地域のつばやき集めてつくるまざり合いまちづくり「南生協の“よってって横丁”」の紹介
南医療生活協同組合 非常勤講師 増田 美紀 さん
- 報告 大府市横根町での移動店舗と地域交流の取り組み報告
生活協同組合コープあいち 大府センター 波多野さん、田村さん、竹本さん、平林さん
- 報告 「コープぎふ おたがいさま東部」 設立準備状況等の報告
生活協同組合コープぎふ おたがいさま東部準備会 佐藤 郷子さん、大山 豊さん
- 報告 組合員参加の地域づくりについて伊賀エリア会の活動報告
生活協同組合コープみえ伊賀エリア会 速見 正子さん、森本 幸代さん、阪 達男さん
- 報告 みんなでつくろう新店舗～クレアチオの挑戦～
金城学院大学生協 全国大学生協連東海ブロック 藤井 千明さん

分散会

少人数の10グループで、報告内容を参考に“人のつながりと私たちがつくる未来”で自由に交流しました。

全体 感想交流会とまとめ

報告と分散会を振り返り、参加者よりの感想や意見発表をして、見えてきたことを確認しました。

今回の交流フォーラムのテーマを更に深めた冊子を、増刊・研究センターNEWSとして発行する予定です。作成しましたら会員の皆様にはお届けします。(文責:事務局)

2013年度地域と協同の研究センター三重のつどい 報告 (文責：事務局)

「大山田農林業公社」「いがまち山里の幸利活用組合かじか」見学・調査

2014年1月29日（水）に、地域と協同の研究センター三重のつどいにて、伊賀市の「大山田農業公社」と「いがまち山里の幸利活用組合かじか」へ7人の参加で見学・調査に行きました。

1. 大山田農林業公社・菜の花プロジェクトの取り組み

まず大山田農林業公社代表の辻上様より、公社の設立から現在の状況、伊賀市内で栽培している菜種を搾油し販売している状況についてお聞きし、工場施設の見学と菜種の生絞りを体験させていただきました。

代表辻上様のお話から 「7年前、旧大山田村の時に大山田農林業公社として設立し施設の管理を任されています。伊賀市になってからも継続しています。搾油した菜種油は、伊賀市内の学校給食で、炒め物やドレッシングに活用されています。その他、観光施設などでも販売しています。昨年の菜種の収穫量から換算すると年間4000万円の売り上げが可能です。実際は700万円程度となっています。販路拡大が大きな課題です。2013年度は62haで30トン収穫できました。伊賀市では100haでの栽培を目指しています。2013年度より栽培マニュアルを作成し、栽培履歴の提出を求めています。生産者からは100円～150円/kgで買い取っています。全国的には100円/kg程度なので平均的な買い取り価格です。種は伊賀市から支給され、刈取りを請け負った場合は10a当たり7000円をもらっています。市からは生産者に10a当たり補助金が2万円支給されています。栽培時期は冬場なので雑草の心配はなく、農薬は無散布です。ただし、連作には向かないようです。刈取りの期間が短いため、その期間に雨が降ったりすると品質の良い菜種の割合が減ってしまいます。種の状態では、品質劣化はほとんどないようで、常温で倉庫に保管しています。」



焙煎度合いにより違う、食味確かめを実施



搾油後のろ過機（倉庫の中に専用室）

菜種選別機械は6月下旬に集中稼働するため、視察時は動いていませんでした。参加者は搾油の体験をさせていただきました。

2. 「いがまち山里の幸利活用組合かじか」の取り組み

組合長の中森様から、組合発足の経過、鹿肉処理、みえジビエについて話を伺いました。解体施設は、衛生問題で立ち入りできませんでしたが、シャッターを開けていただき、施設内を見せていただきました。

中森様のお話より 「私を中心に、かじかの社員が罾をしかけ、獲物の処理は私一人で行っています。加工場の皮はぎ処理等を行えるのも私だけで、後の肉加工処理は従業員が行っています。処理は鹿肉中心で1頭/1日が平均で、季節によってばらつきがあります。1日の最大処理頭数は品質管理上7頭が限界です。肉の販路は東京・大阪のレストランで、東京では、みえジビエの品質が良いという評価をもらっており、引き合いはありますが、ロス中心の注文のため、すべて対応できず断ることも多くあります。鹿は罾にかかった獲物を、人の手でしめています。獲物をしめてから90分以内に処理する決まりなので猟ができるのも伊賀市中心となっています。滋賀県が近いですが、三重県内に限定されています。実際に手間暇かかっているのに安く売りたいのも難しいのが現状で、鹿肉は処理をきちんとすれば生くさくなく刺身でおいしく食べられます。」



かじかの施設

会員活動

三重県生協連より、活動紹介いただきました

(文責：事務局)

「消費者向け中部電力株式会社による電気料金値上げ説明会」開催!

2月14日、多くの消費者の声を直接中部電力株式会社に届けたいと「消費者(三重県民)向け中部電力株式会社による電気料金値上げ説明会」(主催:三重県生活協同組合連合会)が津市で開催されました。開会后、中部電力株式会社 三重支店 片岡支店長より電気料金値上げの申請概要、電気料金値上げに至るまでの背景と取り組み等の説明があり、その後、5名の方から電気料金の値上げに対する質問や意見表明がされ、中部電力より回答がされました。

コープみえ理事の吉田法子さんが参加され発言をされました。説明会での質問等の概要と吉田さんの発言をご紹介します。

説明会で出された主な質問等の概要

- ・電気料金の値上げによる中小企業経営や暮らしへの影響。
- ・再生可能エネルギーへの転換について。
- ・燃料調達費用の軽減ならびに燃料構成の見直しについて。
- ・芦浜の土地の売却について。
- ・原子力発電再稼働にかかわる経費について。
- ・自己資本比率、内部留保について。
- ・公共料金と情報開示、透明性について。

吉田法子さんの発言より

消費者として今回の電気料金値上げに対して反対の意見を述べさせていただきたいと思います。

皆さんが家族、もう少し具体的に言えば家族団欒をイメージしてくださいと言われたらどのような絵を思い浮かべられますか?今は寒い時期ですので炬燵にお父さんお母さん、お爺ちゃん、お婆ちゃん、そして小学生ぐらいの男の子と女の子が湯気の立つお鍋を笑顔でつついているそんな絵が、私は浮かんでまいります。その時間は家族みんなが揃う夜です。外は暗くても家族みんなが明るく見えるのは、家族の笑顔があり、その笑顔をお互いが見合える明るい照明の付いた部屋だからです。私たちの暮らしにおいて電気からの明るさは、家族を描くうえでも必要不可欠なものではないかと思ひます。

電気は水道やガスなどと同様に、使用した料金は「公共料金」として位置付けられています。一般的な商品を購入した時に払う金額とは違う性質です。ですから公共料金には公開性や公明性が課せられています。私たちが暮らしていくうえで、公共料金で払う物は、生きていくために大切なものです。ですからそれを扱う団体は、生活者の暮らしに寄り添う視点が、何より必要ではないかと思ひます。

今回値上げ提案の中で3段階料金制度が提案されています。120kWhまでは値上げ幅が小さくされ、一見暮らしに寄り添っているように思われますが、一般の平均家庭使用量は300kWhです。値上げ率の抑制はむしろこの300kWh数値を中心とした世帯も考慮するべきではないでしょうか。平均家庭使用量に対して配慮ある提案をされるのが、暮らしに寄り添うことが必要な公共料金を扱う者としての、取るべき姿勢ではないかと思ひます。

4月からは消費税が8%となり、私たちの暮らしはますます厳しくなってきます。家族団欒でつくお鍋の具の種類が、消費税アップにより同じ金額で買うとすると、以前より少なくなるでしょう。更に今回の電気料金値上げとなると、今までより照明を暗くしなければならいでしょう。笑顔溢れる家族団欒の明かりを奪わないでください。家族の笑顔をお互いが微笑み合える団欒が、照明を暗くしたことで黒く塗りつぶした絵にならないように、電気料金の値上げを、今一度ご検討いただきますようお願いいたします。



経済産業省の電気料金審査専門小委員会は14日、中部電力が申請した家庭用電気料金の値上げに対する査定方針をまとめた。火力発電の燃料費を一段と削減することなどで、値上げ幅を申請時の平均4.95%から圧縮する。圧縮幅は、政府の認可がいらぬ企業用との平均で、少なくとも0.5ポイント程度になる。

値上げ幅は経産省と消費者庁の協議で最終決定し、関係閣僚会議を経て政府が認可する。認可後は周知期間が必要で、中部電力が4月を目指した値上げ時期は5月以降にずれ込む。企業用は4月に値上げを実施するが、上げ幅は平均8.44%から圧縮される。
報道記事より(2014/03/14時事)

情報クリップ

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(領面)
<p>震災発生から3年 いま考えたこと</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 NAVI</p> <p>2014.3 744</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 震災発生から3年 いま考えたこと</p> <p><CO・OPニュースフラッシュ> 生協コープかごしま コープ東北サンネット事業連合 <防災365日> PART12 地域と防災 生協職員として、地域と共に <宅配・現場レポート> コープながの 客単価アップの取り組み <声に応えた商品改善レポート> 鹿児島黒酢ドリンクカロリーオフ <生協の店づくり最前線> 京都生協 コープ下鴨 <ボクらは商品探偵団> 食べたくなったら2分でOK!! おいしい赤飯 <つながろうCO・OPアクション情報> コープみらい 鳥取県生協 <仲間たちはいま> あいち生協 組織運営課 籠橋和彦さん <明日のくらしささえあう COOP共済> 生協しまね 松江保健生協 <思わず話したくなる! 生協の基礎知識> 第12回 [生協のビジョン編] <この人に聞きたい> 落語家 林家たい平さん <もっと知りたい! CO・OP商品> コープ産地が見えるシリーズ 日本の苺ジャム <表紙> 東海コープ事業連合が行なった福島県の産地訪問</p>	<p>2014年 3月 A4版 39頁 定価 350~円</p>
<p>笑顔を守るお母さん ~ 脱原発の未来創造</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM</p> <p>2014.3 559</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>特集 笑顔を守るお母さん ~ 脱原発の未来創造</p> <p>[インタビュー] 子どもたちの命を守りたい お母さん革命ネットワーク代表 花野桃 [レポート] 未来につなぐエネルギー 市民発電所を手づくりで開設 [バンビのつぶやき] 母ちゃんは怖いものナシなのだ 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子 [住まう] この場所でくらす人々をつないでいく (後編) [介護十人十色] 医療と福祉、市民と行政の連携が高齢者を支える 2013年第6次デンマーク研修視察団報告集より きらり健康生協・すこやか福祉会(福島県) [TOMOそだち] 男性の育児休業の取得で家庭・職場に笑顔を 香川医療生協 高松協同病院 理学療法士 嶋田陽一 [協同のある風景] 214 被曝リスク低減にむけた福島4生協の取り組み ~ 知ることで工夫が生まれる~ (前編) 郡山医療生協・浜通り医療生協</p>	<p>2014年 3月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>震災から3年 「ありがとう」 うまれたもの 育ったもの 教わったもの</p> <hr/> <p>はじめる! 人がつながる 社会が変わる のんびる</p> <p>2014.3 No.89</p> <p>パルシステム 生活協同組合連合会</p>	<p>[特集] 震災から3年 ありがとう</p> <p>* 復興の明かりを灯すマッチ箱マガジンプロジェクト 地元ゆかりの5人の女性クリエイターがデザイン * それぞれの道を歩みつづける南三陸、4人の若手 あなたも「楽しく」参加できる! 南三陸の復興・地域づくり * 被災地で進む「結い」の家づくり 南三陸木の家づくり互助会 (宮城県南三陸町) * 石巻に長ドクターがやってきた! 被災地で、超高齢社会のあるべき地域医療をめざす 石巻市立病院開成仮診療所 (宮城県) 所長 長純一郎医師 * 放射能の心配から離れからだを休める場所に NPO法人福島こども保養プロジェクト@練馬(東京都練馬区)</p> <p>内山節 里山から考える 第51回 「高齢化」を「社会資源化」する道 老いについて(6) 色平哲郎の「地域と医療からみる未来のかたち」第24回 福島第一原発事故と医療危機</p>	<p>2014年 3月 B5版 51頁 定価 315円</p>

<p>新しい子ども・子育て支援法と生協の地域子育て支援</p> <p>~~~~~</p> <p>生活協同組合研究</p> <p>2014.3 458</p> <p>(財)生協総合研究所</p>	<p>巻頭言 内部留保について考える …… 小栗崇資</p> <p>特集 新しい子ども・子育て支援法と生協の子育て支援</p> <p>子ども・子育て支援制度の検討と子ども・子育て会議 柏女霊峰</p> <p>子ども・子育て新制度に向けて生活協同組合のできる事 - 地域社会を豊かにするための一つの大きな領域の出現 - 近本聡子</p> <p>子ども・子育て支援の社会化に向けた検討 - 関連三法と制度の課題 - 平岩則男</p> <p>フランスの子育て支援事情 木下裕美子</p> <p>コラム1 コープさっぽろの子育て支援事業の概要と経営的な効果について 宮崎達郎</p> <p>コラム2 協同組合型で生み出そう！ 子育て支援の新しい形 - 子育て支援フォーラムを開催して - 若松恵子</p> <p>研究報告 移動販売車のデータ分析から見てきた高齢過疎マーケットの本質 (下) 川崎正隆</p> <p>インターネットモニターアンケートから見る組合員の放射能汚染忌避意識について 加藤朋江</p> <p>海外情報 第8回ICAアジア研究会議に参加して 宮崎達郎</p> <p>ICAの中心的価値は地域の個別性と両立し得るか - 第8回ICAアジア研究会議・発表の概要 - 萩原優騎</p> <p>私の愛読書 鬼頭秀一『自然保護を問い直す - 環境倫理とネットワーク』 萩原優騎</p> <p>研究ノート イギリスの友愛組合を訪問して 横溝大介</p>	<p>2014年 3月 68頁 B5版</p>
<p>東日本大震災から3年</p> <p>~~~~~</p> <p>月刊 J A</p> <p>2014.3 709</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 東日本大震災から3年 これからの被災地復興を考える</p> <p>復興の現状とJAグループの取り組み 岡山信夫</p> <p>座談会 被災地JAの現場から 三島幹広・斉藤智行・新衣田直樹・林修司 進行 比嘉政浩 被災地の“いま” - 「絆」から「伴」へのパラダイム転換 三宅民夫</p> <p>・きずな春秋 - 協同のこころ 童門冬二</p> <p>・ミノーレからこんにちは / JAグループの共通コンテンツ</p> <p>・協同の実践に学ぶ 先人の言葉・大池裕 白石正彦</p> <p>・直言！JAへのメッセージ</p> <p>「気負わずにつながること」の大切さ～震災との遭遇とそしてこれから～ クミコ</p> <p>・協同組合の広場 日本生協連、JF全漁連、全森連、全国労働金庫協会</p> <p>・次代へつなく地域社会のために (最終回) 支店協同活動のさらなる深化に向けて 西井賢悟</p> <p>・展望 JAの進むべき道 経済界との連携 富士重夫</p> <p>・地方紙ニュース 第36回 担い手不在の時代のみおつくし 陰山篤志 (山陰中央新報社)</p> <p>・海外だより [DC通信] 34 新たなTPA法案の行方 古林秀峰</p> <p>次代へつなく協同実践塾</p> <p>・持続可能な農業の実現 持続可能なJA運営のために JA全中営農部・農地総合対策部</p> <p>・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 新たなステージを迎えるJA女性参画 ～第59回JA全国女性大会報告 JA全中くらしの活動推進部</p> <p>・10年後JAが存続するために 「JAバンクCS改善プログラム」の展開について 農林中央金庫JAバンク企画推進部 JA全中経営対策本部</p>	<p>2014年 3月 A4版 58頁 年間購読料 4,800円 (送料込)</p>

<p>社会運動と憲法</p> <hr/> <p>社会運動</p> <p>2014.3 408</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>特集 社会運動と憲法 - 市民自治から憲法をとらえなおす 憲法問答1 先生っ、憲法がないと何か困るんですか</p> <p>金子匡良(神奈川大学) 長谷川公一(東北大学) 中里見博(徳島大学) 明田川融(法政大学) 榎澤幸広(名古屋学院大学)</p> <p>護憲の危機 福島の現状から「憲法」を考える 憲法問答2 憲法・沖縄・地位協定 「民衆からの憲法」史 座談会 自治体政治から見えた憲法 知る権利の保障をめぐる 三木由希子(情報公開クリアリングハウス) 排除から参画へ - 障害者の基本的人権 尾上浩二(DPI日本会議) 子どもの権利保障としての「子どもの貧困対策」 湯澤直美(立教大学) 憲法の役割と家族 神谷雅子(学習院大学) 「国民」とは誰か 丹羽政雄(弁護士・移住連) 立憲民主制と貧困問題 笹沼弘志(静岡大学) ヘイトスピーチと「のりこえねっと」 殷勇基(弁護士) プレカリアートユニオンの活動から 安藤博(非暴力平和隊・日本) 請願制度改革の提案 三浦一浩(地域生活研究所)</p>	<p>2014年 3月 B5版 72頁 頒価500円</p>
<p>アベノミクス農政と憲法</p> <hr/> <p>文化連情報</p> <p>2014.3 432</p> <p>日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (3) 組合員に喜ばれる仕事を 梅田穰 院長リレーインタビュー (275) 洞和彦 必要とされる医療は必ず提供したい 二木学長の医療時評 (120) 二木立 財政審「健議」の診療報酬引き下げ論の検証 冬木勝仁 アベノミクス農政と憲法 農協(系統)攻撃が始まった(中) 戦後一貫して家族農業を潰してきた農政 坂本進一郎 イギリスの医療制度はどこに向かうのか (12) 堀真奈美 認知症への国家的な取り組み 金井貴夫 たかが睡眠、されど睡眠 平間好弘 茨木西南医療センター病院で「医療連携セミナー」 星竹敏 在宅医療連携への取り組み - 小さな試み(3) 平成25年度厚生連院内感染予防対策研修会報告 厚生連院内感染予防対策研修会で学ぶことは 中川賢治 第13回厚生連院内感染予防対策(中級)研修会に参加して インテリジェンスを磨く 林達彦 実践にすぐに役立つ内容 巽則雄 多くの方と交流を深めた 幸木千夏 宮城・女川のくらしと生業の再生の今 西出健史 野の風 風緑の丘 保志史子 デンマーク&世界の地域居住(58) デンマーク最新事情:在宅ケアの「価格入札」導入 松岡洋子 旅の途中で(最終回) フルボ酸考 畠山重篤 柞の森から(最終回) 森の語源 熊谷龍子 旅する私の素敵な出会い(6) 海に浮かぶモン・サン・ミッシェル 山本京子 自著を語る「あきらめない力」 / 酒向正春 書評『現代に生きる若月俊一のことば』 / 熊谷麻紀</p>	<p>2014年 3月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-337 0-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

“リニア中央新幹線のどこが問題か？”



2014年4月19日(土) 13:30~16:00

日本特殊陶業市民会館(旧名古屋市民会館)3F第1会議室(金山総合駅から徒歩5分)

報告「環境影響評価準備書の問題点と現在の状況」・・・主催者

講演「リニア計画の真実と終着駅」・・・橋山禮次郎さん

緊急集会 国交省、環境省に私たちの声を届けよう!

資料代:700円(学生500円)

今回は、「必要か リニア新幹線」(岩波書店)の著者であり、運輸政策審議会委員等を歴任され、また 政策評価 公共計画 経済政策を専門とされる立場から、最も早くからリニア新幹線建設に警鐘を鳴らしてこられた橋山禮治郎さんに、リニア計画の問題点を指摘していただきます。(主催者)

[主催] リニアを問う 愛知市民ネット 連絡先:小林 収(090-3384-7003)

後援:日本自然保護協会、愛知県保険医協会、未来につなげる・東海ネット

書籍案内



実践としての・科学としての社会福祉 現代比較社会福祉論

著者:訓覇子・田澤あけみ 判型:A5判 322頁

発行:2014年3月 定価:本体3,300円+税 出版社:法律文化社

内容

社会福祉を歴史的産物と捉え、実践・科学としての相互依存関係に論究(部)、国際比較(部)によって日本の特質を描出する(部)。部は国別ではなく、所得保障、児童・障害者・高齢者福祉を比較軸にして多様なレジームを考察する。

目次

第 部 実践としての・科学としての社会福祉

序章 実践としての・科学としての社会福祉を学ぶ意義

1章 実践としての社会福祉 2章 科学としての社会福祉

第 部 世界の社会福祉

序章 国際比較の視点と目的 1章 所得保障

2章 家族政策・児童福祉 3章 障害者福祉 4章 高齢者福祉

第 部 日本の社会福祉

1章 所得保障 2章 児童福祉 3章 障害者福祉

4章 高齢者福祉 5章 日本の社会福祉と方向性

法律文化社ホームページより

2014年3月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎直巳

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP http://www.tiiki-kyodo.net/

研究センター 4月の活動予定

2日(水) 食と農パネル世話人会

4日(金) 常任理事会

7日(月) 協同の未来塾企画委員会

8日(火) 岐阜のつどい 冊子編集委員会

10日(木) 三河地域懇談会 実行委員会

11日(金) 環境パネル 碧南火力発電所見学

17日(木) F職員の仕事を考える世話人会

18日(金) 理事ゼミ世話人会

20日(日) 生協の未来のあり方研究会「研究集会」

25日(金) 協同の未来塾 第2回

26日(土) 理事会